



SUPPORTERS CLUB NEWS
友の会 会報
TAKAYAMA-UICHI MEMORIAL MUSEUM OF ART

〒039-2501
青森県上北郡七戸町字荒熊内67-94
七戸町立鷹山宇一記念美術館内
鷹山宇一記念美術館友の会
TEL 0176-62-5858 FAX 0176-62-5860

七戸町制施行100周年記念

郷土の
作家たち展
を 開 催

鷹山宇一 鳥谷幡山
上泉華陽 平野四郎
奈里多究星各氏の作品を展示

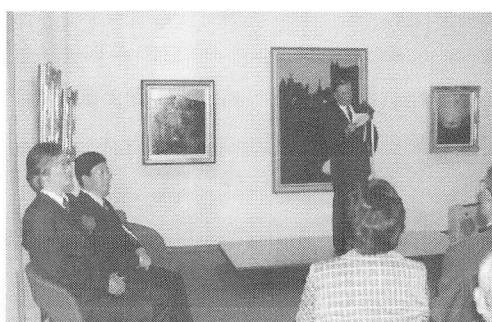
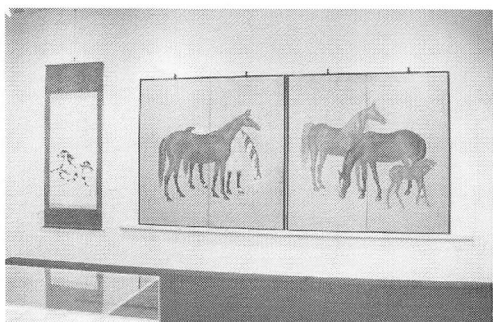
夏休み期間中を中心に開催された「東郷青児展」に続く七戸町制施行百周年記念の特別企画展として「時空を超えて新たな旅立ちへ：郷土の作家たち展」が10月12日(土)から11月4日(月)までの期間で開催されました。鷹山宇一記念美術館の4名の収集作家・鷹山宇一、平野四郎(洋画)、鳥谷幡山(日本画)、上泉華陽(洋画)の126点に及ぶ作品を絵画室に展示するとともに、スペイン民芸資料館を会場に招待作家として七戸町出身の現代人形作家・奈里多究星氏の作品を特集して、七戸町の歴史と伝統を文化面から紹介したものです。オープニングレセプションでは、関係者を代表して上泉華陽氏のご子息・幸也氏よりご祝辞があり、展示会場において奈里多究星氏のギャラリートーク、そして平野四郎氏の三男・勝史氏による作品解説をしていただきました。当館収集作家の資料研究を充実させる点からも、大きな意味のあった今回の特別展でした。友の会会員の皆様の変わらぬご支援に感謝申し上げます。

ご祝辞から(要旨)

上泉幸也氏

このたび町制施行百周年の記念事業として、この「郷土の作家たち展」が開催され華陽の作品が展示されますことは、ひとえに、町、教育委員会をはじめとする関

係各位のご協力の賜であります。美術館も平成6年のオープン以来数々の企画展を開催し、県内外からの来館者が着実に増加している旨聞き及んでおります。この成功の灯を弱めることなく、今後なお一層のご繁栄をお祈り申し上げます。



- 上 (右)10月11日開催されたオープニングレセプションにおいて、関係者を代表して祝辞を述べられる上泉幸也氏。
- (左)上泉華陽新資料が展示されました。
- 右 スペイン民芸資料館において、自らが展示した人形を手にとってギャラリートークをする奈里多究星氏(本名・成田久常氏)。処女作から今回の企画展のために制作した6体の人形まで10数年にわたる創作活動の集大成が展示されました。
- 下 (右)平野作品は、今回の調査によって初めて公開された作品もあり、今展が当館で開催する初の回顧展となりました。また、青森県内や地元七戸の風景を題材にした作品も多数展示されました。
- (中)平野四郎氏の作品を前に解説をされる平野勝史氏。
- (左)鳥谷幡山氏の作品を集めた絵画室には、当館収蔵資料を中心に新資料も公開されました。また、会期中には幡山氏ご家族が来館され、美術館資料としての活用を望まれ七戸町へ絵画の指定寄付がありました。(関連記事3ページ)



来館20万人 を達成

開館以来3年間で

当美術館は平成12年5月に累計来館者数10万人突破を達成していますが、それからわずか1年半余りの11月2日、来館者数が20万人を数えました。充実した内容の企画展を開催できたことがスピード記録の達成につながったと思われます。七戸町制施行百周年記念企画展「郷土の作家たち展」の開催でもあり、大きな記念となりました。



▶20万人目の入館者・中澤逸男さんは新幹線建設工事の関係者。福士孝衛町長、鷹山ひばり館長より記念品が贈られました。

友の会研修旅行記

「奈良美智展」の
不思議な子どもたち

倉本 貢

9月29日午前8時、友の会一行のバスは七戸町の中央公民館を出発。景色が動き出し、車窓から流れる野山の眺めから秋の深まりを感じながら、目指す行き先は「奈良美智展」。

「ミレーとバルビゾン派の作家たち展」、そして復路は県立郷土館で開催された「大本山相國寺・金閣銀閣秘宝展」。

奈良美智氏は、不思議な表情を持つこどものような人物の絵や立体作品で、若者たちを中心に話題のアーティストである。弘前市出身という郷



▶「奈良美智展」開館前の光景。チケットブースに長蛇の列が…。

土の芸術家、そして吉井酒造煉瓦倉庫を改造しての展覧会、ボランティア主体の運営等の宣伝もあり、是非行ってみたいとの思いがあった。



▲「奈良美智展」会場となった吉井酒造煉瓦倉庫前にて記念撮影！

さて「奈良美智展」は、最終日とあって長蛇の列がで賑わっていた。真つ暗闇の倉庫の中に入った途端に前を歩いていた女の子が、ライトアップされた藪尻みの絵を見て「お母さん怖い、怖い」といって母親にしがみついている光景が見られた。子どもには怖さのイメージが強かったのか、あまり歓迎されていないようである。作品の感じ方も人さままでである。

大人から見てもお世辞にも可愛いとは思えないが、一度見たら脳裏に焼き付いて離れない、変わった面相の不思議な子どもの世界であった。奈良美智氏の作品に登場する子どもたちのあの上目づかい、何を意味しているのか。もしかして親や大人、そして社会に対して何かを発信しているのだろうか。それともその子に潜む不

安や不満、怒り、反抗心など、否定の心を美術表現で形象化されたものだろうか。私の癒しの鑑賞だけでは、奈良美智の世界には近づきそうにもないと気づいた。「目で見るより心で感じることの大切さと奥深い何かがあると教えられたような気がした。

私には癒しの快適な旅の予定であったが、引率責任者の盛田氏から突然の感想文の依頼、気の弱い小生、断る勇気もなく新米の宿命と諦めての初参加となった。お陰様で、会員の皆様と親睦を深めながら一日に三展も鑑賞ができ、贅沢な研修ができました。さらには「彦庵」の石臼粗挽手打そばの味わい豊かさにも恵まれるなど、芸術の秋を満喫した一日でした。

【七戸町在住友の会会員】

わたしの
おすすめ
美術館

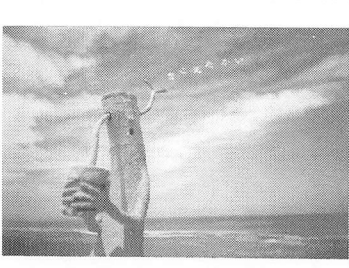
ギャラリー「のり」とくらり
—埼玉県さいたま市—
(元・浦和市)
残念ながら
只今休館中です

…文/Yukiko…

美術館を旅するひとへ。
にぎやかな大通りを外れ、住宅地に入る。何のことはない、ただの街の、普通のお路地にそこはある。

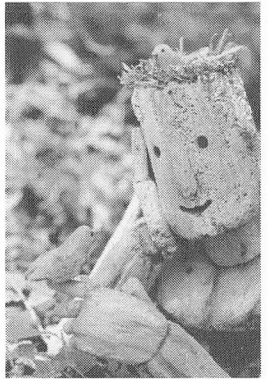
仕事や生活に忙しく緊張しているときや、そこを探しているときは見つからない。少しぼろっと惚けているとき知らぬ間に入り込んでいる、そんなところである。

その場所にいるのは、流木の人たち。土の人や布の人もある。石ころの人なんかもいて、のんきに惚けた客人を迎え入れてくれる。その世界の水先案内人、神岡さんがそこにおいて、彼らと同じ笑顔で、やはらかなα波の光



▲ object by Kamioka Manabu

「家」▶
迎える朝がいつもより眩しいのはあなたがそこに居るから
迎える夜がいつもより暖かいのはあなたがそこに居るから
いくつもの刻をあなたと共に感じてひとりではないことを知るあなたの待つゆりかごにわたしは今日も還ってゆく
object poem by Kamioka Manabu
photo by Kamioka Kinue



※神岡さんの作品流木・粘土・石ころはそれぞれ写真集としてダイヤモンド社より好評販売中！書店でお求めになれます。

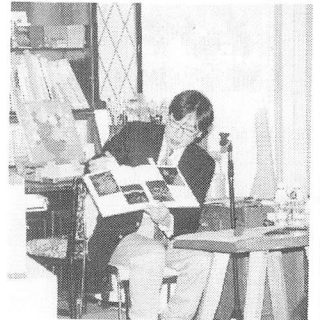
の中をかいま見せてくれるのだ。
「石で仏を作るのではなく、石の中から仏を掘り出すのだ」とは、石仏を彫る仏師の言葉であるが、彼は生まれつきの仏師かもしれないと思える。
一度この世に生を受け、命尽きて海に行き、流れ着いてまた息を吹き返した流木のやさしい喜びが伝わってくる。きつといい旅が出来ることだろう。

遊蝶記

12月10日は鷹山宇一誕生記念日に集う



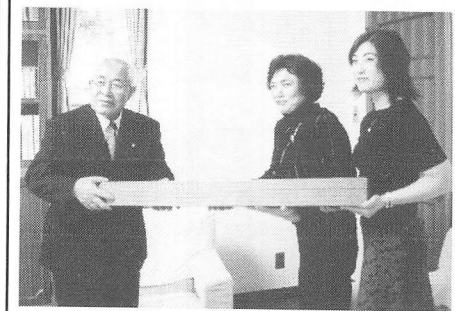
▶「ハッピーバースデー」の歌をうたい、誕生記念日を祝いました。



◀美術講演会にて、講師 工藤学芸員

12月10日の鷹山宇一誕生記念日を「遊蝶記」と名付けたこの日、当館では毎回ささやかなお誕生会を行っています。

今年も無料開館をして、「鷹山宇一の世界」展を開催いたしました。また、バースデーケーキをいただきながら鷹山先生との思い出を語らう「遊蝶記の集い」、続いて、美術講演会（県民カレッジ認定講座）を開催しました。青森



去る10月21日、鷹山宇一記念美術館資料として活用してほしいと、七戸町へ絵画の指定寄付がありました。当館収集作家・鳥谷幡山作品5点をお孫さんに当たる野谷善達氏より、また、ゆかりの作品1点を幡山三男故・剛三夫人瑞子氏よりご寄贈いただきました。当日は代理として野谷氏の奥様、お嬢様が来七され七戸町長を訪問、作品が引き渡されました。寄贈作品は保管に十分留意し、広く活用させていただきます。

環境生活部美術館整備・芸術パーク構想推進室学芸員の工藤健志氏を講師にお招きし「鷹山宇一のアトリエ」が再現された絵画室において、「二科会における鷹山宇一の存在、そして、仮称青森県立美術館コレクションにおける鷹山宇一の位置づけを、美術史の流れをふまえながらおよそ1時間に渡ってお話を頂戴しました。

このたび3回目となる遊蝶記、1999年10月25日の先生のご逝去から、早いもので3年という歳月が流れたことになりました。これまでの様々な出来事やこの1年を振り返り、また、新年への抱負を胸に抱いて・・・2002年を締めくくる節目のひとつとなりましました。

美術館日誌

【9月】

- ◇鷹山館長鶴田町梅沢小学校で講演(10日)
- ◇青森保健センター「こ一行様来館」(13日)
- ◇NHK文化センター弘前27名様、南部サミット様来館(15日)
- ◇東郷青児展最終日(16日)
- ◇展示替え作業のため臨時休館(17日～20日)
- ◇スペイン館ガラス扉補修工事(17日～19日)
- ◇七戸町制施行百周年記念七戸の四季写真展開催(21日～29日)
- ◇2階工房において七戸町教育委員会主催事業「子ども探検隊ワークショップ」を開催(22日)
- ◇友の会研修旅行開催、奈良美智展・バルビゾン派の画家たち展・金閣銀閣秘宝展を鑑賞(29日)
- ◇展示替え作業のため臨時休館(30日～10月11日)
- ◇大萩康司ギターの夕べ開催(6日)
- ◇郷土の作家たち展オープニングレセプション開催。人形作家・奈良多究星氏、平野四郎三男・平野勝史氏によるギャラリートークを開催(11日)
- ◇郷土の作家たち展初日(12日～11月4日)。
- ◇2階工房において当財団浜中常務理事を講師に七戸町中央公民館主催事業「七戸町ふるさと伝統さがし学習講座」開催(12日)
- ◇当館主催平山郁夫展鑑賞ツアー開催(20日)
- ◇鳥谷幡山の孫・野谷善達氏奥様、お嬢様来館。鳥谷幡山三男鳥谷剛三氏令夫人・瑞子氏所蔵掛軸と野谷氏所蔵掛軸を当館資料として町へご寄贈下さる(21日)

【10月】

- ◇第2回鷹山賞児童作品展作品審査のため二科会会員濱田進先生来館。福士七戸町長、佐藤七戸町教育長、鷹山館長の4名による審査が行われる(25、26日)
- ◇鳥谷幡山の孫・川口澄子様ご家族でご来館。子どもたちのためのワークショップを開催。郷土の作家たち展の鑑賞と模写を体験(27日)
- ◇青森県美術館整備・芸術パーク構想推進室学芸員三好氏、工藤氏来館。当財団平成14年度第3回理事會開催(30日)
- ◇むつ市教育委員会主催あおもり県民カレッジ認定講座「こ一行様来館、鷹山館長の講演会並びに大池学芸員のギャラリートーク」開催(1日)
- ◇平成6年開館以来の入館者20万人達成。子どもたちのためのワークショップを開催。水彩紙によるしおり作りに挑戦(2日)
- ◇展示替え作業のため臨時休館(6日～8日)
- ◇ランプ館ガラス戸補修工事(8日)
- ◇鷹山宇一を中心とした常設展を開催(9日～17日)
- ◇鷹山館長野辺地中学校で講演(12日)
- ◇鷹山館長十和田市読書会で講演(14日)
- ◇第2回地球環境世界児童画コンテスト優秀作品展・第2回鷹山賞児童作品展初日(23日～12月15日)。
- ◇鷹山賞児童作品展授賞式及び懇親会を開催。授賞式には来賓としてJQA小野会長・姫野氏ご出席、お二方を囲んでの歓迎宴会を開催(23日)
- ◇七彩会開催(24日)
- ◇平成15年度特別展「造形の森展打ち合せのため担当朝日新聞社名古屋企画事業部小倉氏来館(27日)
- ◇鷹山館長南部町で講演(30日)

美 術 館
レ ー ス ル
の 案 変 更
内 更 改

※下記のとおりに変更となりました※
takayama-museum@
town.shichinohe.
aomori.jp
ご意見・ご要望などお気軽にお寄せ下さい

冬 期 休 館
お 休 館 日 間
知 ら せ の

■ 年末年始
12/30(月)～
1/2(金)
新年1/2(金)
■ 館内整備
2/3(月)～
2/10(月)
■ 定休日
毎週月曜日

第2回

鷹山賞児童作品展

地球環境世界児童画コンテスト優秀作品展

特別展レポート



11月23日(土)開幕した鷹山賞児童作品展そして地球環境世界児童画コンテスト優秀作品展は、12月15日(日)23日間にわたる会期を終了しました。



小学生の部鷹山賞受賞、伊智仁美さん
 十和田市立三本木小学校1年

点を展示したもので、一段とレベルアップした個性あふれる創造性豊かな作品たちを多くの方々にご鑑賞頂きました。

七戸町教育委員会との共催による鷹山賞児童作品展は、青森県南部地方の小中学生に作品を公募したもので、27団体2個人から、昨年を上回る794点もの応募がありました。

また、本展初日の23日には、鷹山賞児童作品展入賞者を対象とした授賞式を行い、父兄ら関係者が見守る中、作品に囲まれた展示会場・スペイン民芸資料館で、入賞者一人一人に賞状と記念品が手渡されました。

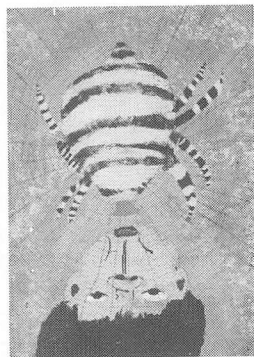
当日ご臨席を賜った地球環境世界児童画コンテスト優秀作品展を主催する(財)日本品質保証機構の小野雅文会長からは、



10/25の審査会風景、右から二科会会員、濱田進先生、鷹山館長、佐藤七戸町教育長、福士七戸町長

「皆さんの作品を見させていただくと、表情豊かで、そして“青森だな”と実感することは版画が多いこ

小学生の部、鷹山賞受賞作品
 “こうわあすこいも!”



とです。これはほかの地域にはなかなか見られないことで、さすが鷹山先生、棟方先生の生まれた青森だなあと思っております。」と挨拶を頂戴し、また、地球環境世界児童画コンテスト優秀作品展

開催の意義についてお話をいただきました。この展覧会は授賞式に参加した子どもたちと同年代の、世界63カ国15,748点もの応募作品より選ばれた90点を紹介するもので、どれ一つとして同じものはない個性豊かで表現力に優れた作品からは、自然に対する子どもたちの夢や願い、そして大切にしていこうという思いが伝わってきます。新鮮な驚きと感動を与えてくれる両展覧会、来年も素晴らしい作品に出会えることを楽しみにしています。

(財)日本品質保証機構 会長 小野雅文様 より

「第2回鷹山賞児童作品展授賞式」子どもたちへ向けて、ご祝辞から一部を紹介します



皆さんは「三内丸山遺跡」へ行かれたことがありますか？まだ行かれていなければ是非連れて行ってもらってください。あそこに行くと、すごく太くてダーっと高い木の柱が立っているんですね。昔はあんな大きな木がその辺りにたくさんあった訳です。だけど今はもうそんな大きな木がなくなっちゃったんですね。これは枯れたのではなくて、みんな人が切ってしまった訳です。そんなことで今地球の自然はどンドンどンドン壊れて、森が失われたり、川が汚れたりしているんですね。これじゃいけないということで、この自然をこのまま綺麗なまま残しておこうじゃないかと、そういう運動のお手伝いをさせて頂いている団体が私どもの日本品質保証機構です。この展覧会は世界中で自然を保護する、自然を残していく、ということテーマにした絵を募集し、世界各国だいたい60カ国から1万5千点ぐらい集まるんですけども、この中から優秀作品展として日本各地で飾らせていただいているほか、ニューヨークの国際連合本部でも飾らせていただいております。世界中のお友達たちがこのように立派に自然を保護しようとしてますよ、ということを展覧会でやろうとしている訳です。是非皆さんも、絵を2つ描いていただいて、一つは鷹山賞へ一つは私ども地球環境世界児童画コンテストの方へ出品していただきたいなあと思います(笑)。当地方からも続々といい絵が集まることをお願いして、ご挨拶にしたいと思います。

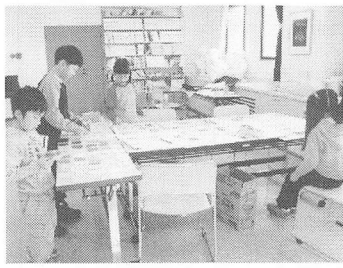
子どもたちのためのワークショップ

【担当/曾根原牧子】



10/27(上)、11/2(下)

特別展「郷土の作家たち展」期間中開催したワークショップは2回。美術館ならではの体験となりました。10/27、作品を見ながら学芸員さんから作家や作品のことを聞きました。その後、好きな絵を選んで真似して描くことにしました。ためらうことなく選んで黙々と描くこと1時間、鉛筆で描いたスケッチに感じたことを言葉で添えました。絵を捉える丁寧な眼差しが伺える1枚となりました。次は11/2、地元七戸出身の人形作家、奈里多野屋さんから作品のことなどを聞きました。まじりめな顔つきで話を聞いたあと、ビデオで人形の動く様子を見ました。緊張したのか質問はできなかったけれど、心には響いていたようです。



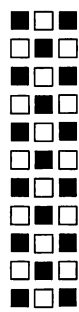
▲11/30。色の組合せを考えながらカレンダーを作りました。

▼12/7。室内作りの灯を消し、手のひらで光を消す、ハンドルカを放す。



月刊「れじおん青森」より
青森風景誌⑤
蝶の幻想

村上善男



（美術の秋、上野の森に開幕）、などといっても通じまい。

今ではほとんど私語に近いこの常套句が、新鮮な響きを伝えていたのは、せいぜい六〇年代と呼ばれる、あの頃迄ではないだろうか。

一年中美術催事に迫われている。秋だけが特に限定されたシーズンと呼ばれるものでもない。しかし、戦後美術を生きてきた我々にすれば、（美術の秋）の惹句は、たちまち東京都美術館で開催される、恒例の二科・行動・院展の長い垂れ幕と、館内の床に発するオイルの臭いが、なまなましく蘇ってくるのを覚えるのだ。加えてレストランのカレーの匂いも。

忘れもしない、昭和二十三年九月一日、私は二科展会場で、わが新入選作を探していた。

夜行列車で十二時間余、上野駅に着くのが七時前である。それから開館迄、一体なにをしていたのだろう。二十歳であった。東京温泉の朝風呂などという知恵がつくのは、二、三年かかった。典型的田舎学生の画家志望者上京の図である。

木枠、キャンバス、絵具さえも自分で製作した。見るからに貧しい80号大の作品は、第二四室（だつたか）に、ひっそりと息を詰めていた。油彩特有の輝きがなく沈んでいる。

思い出すのも辛い。演劇の舞台装置用の、一寸角と呼ばれる角材を組み、洋服のシン地の麻布を張り、胡粉を膠でといて地塗りをし、染料（わが家は染色業で、戦中に廃業）や泥絵具の粉末を、亜麻仁油で練って、油絵具（状）にした。それを塗り込める。

総てわが創意なりといえば聞こえはいいが、破れかぶれの手作業である。今なら、まずアルバイトをして資金を作り、画材を求めて制作スタートがすじ、と気付くのだが、あの時はいわば衝動的に行動した。

暗く、赤味をおびた縦長の空間に、白く荒い川のようなものが走り、上部で一点に絞り込まれている。右手下部に、べたりと、一匹の蛾が張り付くという図柄は、なにに発想したのだったか。

モチーフの蛾は、岩手大学教養部生物教室S教授研究室で、標本箱から筆写させてもらった。図鑑の引用では決してない。それにしても、何故蛾に引かれたのか、蝶ではなくて。

後年に、同作は横浜美術館に収蔵された。好運というほかない。

さて前出の九月一日の夜である。二科会のパーティーなるものに出席した。入選通知状に、パーティーの出席を促す案内が添えられていたので従った。

少し遅れて会場に着くと、華やかなバンド演奏が始まっている。その中を、東北地方の出品者席を探した。一つのブロックというには人数が少ない。岩手はどうやら自分一人である。お定まりの受賞者表彰が終わると、各地方のブロックごとで乾杯が始まった。

バンド演奏が再び開始

され、会場が騒然となった頃、二人の二科会幹部会員とおぼしき方々が東北ブロック席に近づいて来られた。

阿部金剛先生と鷹山宇一先生である。と知ることにになったのは、隣席のデザイン部出品者・Y氏のささやきによる。氏は青森市の出身者らしい。

岩手に入選者が出たのは、実に久方振りのことだ。村上君というのは居るかぬ。

私は立ち上がった頭を下げた。

瘦身の、頬のこけた、眼だけが異様に（？）光っている学生出品者に、阿部先生は「へほう」といった。鷹山先生がすぐ続ける。

岩手と青森は地続きだ。仲よくやって、いい仕事をしてくれたまえ。

この時点で、誠に失礼さきわまりないことに、両先生が、どのような作品の作者であられるか、まったく知らなかった。だいたい二科展なるものに、充分に知識があるといえないのだ。演劇から美術に転じて、ひそかに制作をしていた私の作品に、盛岡短期大学美術工芸科に学ぶ友人Oが、こんな

絵なら、一科展向きかな」といったのを、真に受けての応募である。会員に、東北出身者の方がおられることなど、まったく念頭にない。

翌日、二科展をあらためて見に行った。

抽象の、まさに純粹抽象の阿部金剛先生の作品の前で、私は昨夜の立派な紳士と映った人物と結びつかないこととまどった。

また鷹山宇一先生の作品でも、これまた作者のお姿と結びつかない。

鷹山先生の作品は、誰の目にもあきらかなように、二科会の最も主要な壁面で構成されている第四室の中央に位置していた。都会の幻想風景。窓辺に置かれた花瓶のバラに、蝶が群れている。

蝶の一匹一匹は、実に克明な筆のタッチによって精密に描かれていた。その描写力は、職人芸といつてよかった。だが、超現実主義傾向の作品にあるような、ぬるぬるした、不気味な肌合いではない。乾いているのだ。かといって、殺伐とした感覚にあらさず、幻想性がゆつたりと、たゆたう。

深い闇と見えるものは、決して漆黒に非ず。緑味が、限りなく墨に近づいてゆく気配なのである。鷹山先生はモダニストなのだ。

後年、動かし難い自説の誕生となるのだが、都会的なモダンな世界は、実はいわゆる田舎者によつてのみ成される。という定説！が浮かぶ。

最初の出会いから二年後、私は銀座で東京二回目の個展（なびす画廊）を開催した。一枚の写真が残っている。二科会会員の藤澤典明氏が計画して下さった個展のパーティーに、鷹山宇一先生と阿部金剛先生がわざわざ足を運んで下さった。しかしながら両先生にとり、あまり居心地のいい会ではなかったのではと推察する。

何故なら、参会者の多数は無所属で、団体展無用論者ばかりであった。スピーチのはしはしに、団体批判が繰り返された。（自立せよ村上）、（個展、グループ展のみを発表の場とすべし）。その後数年して二科を離れることになった。九年間の二科出品時代で得たものは少なくない。

周知のように、七戸町

立鷹山宇一記念美術館が、活発な活動を続けている。友の会組織も会報がこの六月十五日で第二七号を数えるように、館をしつかりとささえている。

美術館を訪ねるたびに、鷹山先生の温顔が思いだされて、胸が痛む。私は先生に、なんの御挨拶も申し上げずに、会を離れた。といっても会員でも会友でもないの、正確には出品を取り止めたにすぎないのだけれども。

先日、鷹山ひばり館長から直接うかがったところによれば、先生は蝶を図鑑ではなく標本のガラス・ケースを開けて、一匹一匹描写しておられたのだという。蝶と貝殻は、わが国のモダニストないしはシュール・リアリストの永遠のモチーフだったが、鷹山蝶は、そのような（あいまいな気分の中の蝶）ではない。徹底写実の蝶の群れは、それ故に幻想の度が加速する。遂には、神秘的鷹山ワールドに達した。

【月刊れちおん青森／編集・発行（財）青森地域社会研究所、平成14年8月号掲載】

※快く転載のご許可を下さいました財）青森地域社会研究所並びに村上善男先生に深く感謝申し上げます。

友の会会員登録更新のご案内と 新規入会のおすすめについて

本年も会員の皆様には、一方ならずご協力を賜り、誠に有り難うございます。

さて、いよいよ新年を迎えるに当たって、皆様には引き続き会員登録をご更新いただき、今後も当会の事業へのご協力、並びに相互学習に取り組んでいただきたいと思います。平成15年度の更新手続きは、美術館窓口、または、同封の郵便振替用紙による方法にて受付いたしておりますので、どうぞよろしく願います。会員の種別と会費については左記のとおりこれまでと同様です。

なお、新規会員も随時募集、受付いたしておりますので、ご興味をお持ちの方々へも是非ご紹介をいただきますようお願い申し上げます。

会費規程【規約第5条】

★一般会員：年額3千円

【特典】①ご招待券3枚贈呈及び入館料の割引

②ミニージャムグッズの割引【一部対象外有り】

③研修旅行・講演会・会報等のご案内

★個人特別会員：年額1万円

【特典】①一般会員②の特典

②会員証提示によりご本人と同伴者1名様迄入館無料

③新規加入の方には美術館で刊行した画集1冊を贈呈

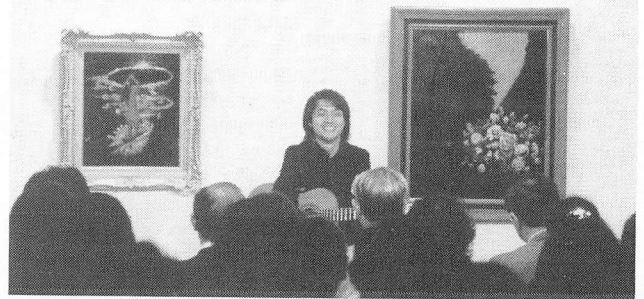
★法人特別会員：年額2万円

【特典】①一般会員②及び個人特別会員③の特典

②会員証提示により代表者と同伴者3名様迄入館無料

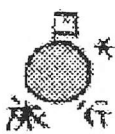
※新規・更新すべての会員の皆様には「鷹山宇一デザイン」をプレゼントいたします。

大萩康司ギター・リサイタルから



去る10月7日(月)、美術館コンサート「大萩康司ギター・リサイタル」が鷹山宇一記念美術館において開催されました。今まさに活躍中のギター界の若き天才！大萩さんの奏でるすてきな音色に、訪れた多くの聴衆は魅了されっぱなし！そのテクニックに唸りました。今後ますますの活躍を楽しみにしています。

研修



イタリアルネサンス紀行

2004年1月に開催予定のイタリア周遊11日間の旅。美術館開館と友の会結成10周年を記念してこの企画も、出発まで残すところあと1年あまりとなりました。お陰様にて30名の定員は予約で一杯となりましたが、ご好評につきこのほど40名まで参加枠を拡大いたしました。若干ですがこれからの申し込みも受付可能ですので、ご希望の方は美術館までご連絡下さい(TEL0176-621-5858)。

また友の会では、平成15年度事業の一環として、この研修旅行にちなんだ「イタリア文化講座(仮称)」の企画を予定しています。研修旅行への参加不参加は問わず会員皆様を対象としたものですので、どうぞお楽しみに！詳細が決定次第ご案内させていただきます。

ご報告

当会設立当初から継続して参りました、美術館への助成金(入館料相当額861,400円)を、10月1日、支払いました。



編集後記

午年の今年の皆様方にとって、どんな年でしたか？

ゆとりゆとりと叫ぶほど、ゆとりを感じなくなるのは私だけでしょうか…。来年も癒しの場として美術館に足を運びたいと思っています。

では、良いお年をお迎えます。

編集係 M.O